

マルセル・ブロイヤール  
《クラブ・チェア B3(ワシリー)》



Marcel Lajos Breuer (1902-1981)  
《クラブ・チェア B3(ワシリー)》

1927-28年(デザイン:1925年)  
高さ72.0, 幅77.5, 奥行70.5 cm  
スチールパイプ(クロームメッキ塗装)、  
布(アイゼンガルン)  
製作:スタンダード家具社  
平成26年度購入  
撮影:アローアートワークス

2

の椅子には、工業生産された直径二センチの鉄パイプが用いられています。鉄パイプは単体として見れば、たんなる「部品」にすぎません。その部品を折り曲げて、組み合わせることで、座るという機能を満たし、軽量で安価、かつモダンな建築空間にも見合う椅子へと変換した、それがブロイヤールの最大の功績と言えるでしょう。

南ハンガリーのペーチに生まれたブロイヤールは、一九二〇年にバウハウスに入学し、家具製作について学びました。一九二五年からは同機関で家具工場のマイスターを務め、新設された校舎の家具も手がけました。

《B3》には、いくつかのバージョンが存在します。一九二五年にデザインされた最初の《B3》では、八種計十三本の鉄パイプが使われました。脚は、コの字型に曲げたパイプが前後で連続するのではなく、一本一本独立していました。パイプはすべて、左右十カ所ずつ計二十カ所が熔接されていました(A)。

翌二十六年にかけて、パイプの構造に大きく変更が加えられました。とくに貫(椅子の構造を補強する横棒)の位置と数を見直し、整理したことで、下部に広く空間をとった、ほぼ最終形に近いデザインができてきます(B)。鉄パイプの連結には引き続き熔接が用いられていましたが、これ

には熟練した技術が必要で、なおかつ組み立てに時間がかかるため、パイプを立体的に交差させ、六角形のボルトで締めて接合する方法に置き換えられました(C)。二十七年以降のバージョンでは、さらにボルトの数を四カ所減らし、組み立てやすさ、軽量化を進めています(D)。新収蔵となった《B3》は、この最終バージョン(D)で、コの字型を基本とした五種計八本のパイプを、大小の六角ボルト十四個で固定しています。本作は、ベルリンで設立されたブロイヤールの家具会社で生産された量産モデルとなっています。

諸事情から《B3》は、正式なバウハウス製品とはならなかったものの、工房における手工作をまじえた実験をとおして、工場生産のための標準型を作ることを目指したバウハウスの活動をよく伝える一品です。

経営の難しさから、一九二八年六月にはブロイヤールは会社の権利を、曲木家具で知られるトーネット社へ売却してしまっています。生産にあたり、トーネット社が《B3》の構造に変更を加えたため、純粋にブロイヤールのデザインといえる《B3》は早々に姿を消してしまいます。ブロイヤールと契約をかわした別の会社から、本来の《B3》が再び生産されるようになるのは、ようやく一九六〇年代になってからのことでした。(工芸課主任研究員 北村仁美)